

文献紹介

誌名	鶏病研究会報
ISSN	0285709X
著者名	
発行元	
巻/号	5巻1号
掲載ページ	p. 45-47
発行年月	1969年3月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



第2 本品は、次の基準に適合していなければならぬ。

1. 特性試験の結果、異物、異臭がなく、小分容器ごとの性状が均一であること。
2. 純粋試験については、動物用生物学的製剤検定一般基準によること。
3. 無菌試験については、動物用生物学的製剤検定一般基準によること。
4. 安全試験の結果、すべての試験鶏は注射反応を呈することなく全く健康であること。
5. 力価試験の結果、2回目の予防液注射後3週目の血清を用い中和試験を行ない、規定以上の抗体価があること。

第3 第2の1から5までの試験において、その結果を判定するのに困難な場合が生じたときは、当該試験を反復する。

附 記

1. 安全試験実施上の注意

- (1) 鶏伝染性気管支炎ウィルスに対する抗体のない健康な4~5週の白色レグホン種の雛7羽を用いる。そのうち5羽を試験鶏とし、2羽を対照鶏とする。
- (2) 試験は試験鶏に試験品を使用法に準じて接種し、対照鶏とともに4週間観察する。
- (3) 事故のため試験鶏が半数以下となった場合、試験を反復する。

2. 力価試験実施上の注意

- (1) 中和試験に使用するウィルスは予防液の製造に用いたウィルス株と同じものを用いる。
- (2) 対照鶏血清と予防液接種後3~4週目のプール血清(免疫血清)について56°で30分間非働化したのち、希釈ウィルス液と等量混合し、4°で18~24時間感作する。
- (3) 鶏腎培養細胞を用いたブラック法により中和試験を行ない、50%にブラックを減少させる血清の希釈倍数は免疫鶏では100倍以上、対照鶏では20倍以下であること。

3. 文 献 紹 介

集録誌名および巻(号)

日本獣医学会誌 30 (4, 5): 日本獣医師会誌 21 (7-11): 農林省家畜衛生試験場研究報告(和文) 57: 同左季報(英文)(NIAH, Quart.) 8 (3, 4): 日本家禽学会誌 5 (4): 畜産の研究 22 (8-12): 獣医畜産新報 474-484: 日本畜産学会報 39 (6-10):

1. 横山利郎: 養鶏場や孵卵場の衛生と防疫管理 (2) (実用記事). 畜産の研究, 22, 1055: 1183, 1968
2. 信藤謙蔵, 中曾博之, 石井達郎: 食鳥検査の技術と衛生 (2) (3) (4) (5) (実用記事), 畜産の研究, 22, 1061; 1188; 1331; 1459; 1968
3. 和賀井文作: 家畜家禽ふん尿の処理とその利用 (2) (4) (5) (6) (7) (連続記事). 畜産の研究, 22, 1127; 1259; 1379; 1511; 1629; 196
4. 秋山 紳: 鶏の衛生(技術講座). 日獣師誌, 21, 355: 403, 1968
5. 田原 滋: 最近の米国採卵養鶏場の経営と技術 (2) (実用記事). 畜産の研究, 22, 1321, 1968
6. 青木貞治: 鶏ひな白痢に対するクロラムフェニコールの効果(実用記事). 畜産の研究, 22, 1074, 1968
7. 白坂昭治: アヒルの *S. pullorum* 感染例について, 日獣師誌, 21, 347, 1968
8. 加藤和好: 鶏の伝染性コリーザ VII 実験感染例に対するスルファメノメトキシンの治療効果, 日獣師誌, 21, 349, 1968
9. 久葉 昇, 橋本和典, 佐藤多津雄, 佐伯一郎, 稲口利次, 小松基宏: 鶏の実験的マイコプラズマ病に関する研究 1. *Mycoplasma gallisepticum* の気囊および静脈内接種鶏における臨床観察および接種菌の回収について. 日獣師誌, 21, 316, 1968
10. MINAMIMOTO S., SUZUKI, K. TANAKA, K. & MURAYAMA, J.: Eradication of *Mycoplasma gallisepticum* Infection in a Chicken Flock on a Breeding Farm: NIAH, Quart, 8, 164, 1968
11. 山田進二, 藤川英雄, 幸田祐一, 小原速美, 池田勝幸, 市原 強, 市原鶴雄: ニューカッスル病B₁株ワクチン 1. 中すうに対する安全性および免疫原性, 日獣師誌, 21, 433, 1968
12. 竹原健一, 須永 武: 養鶏業立入検査状況より見たニューカッスル病防疫の問題点について, 獣畜新報, 475, 5, 1968
13. 竹原健一, 須永 武: ニューカッスル病赤血球凝

- 集抑制抗体調査成績 I 汚染地区の流行時における卵黄内の赤血球凝集抑制抗体, 獣畜新報, 476, 25, 1968
14. 竹原健一, 須永 武: ニューカッスル病汚染地区における疫学的調査成績と防疫対策について, 獣畜新報, 477, 26, 1968
 15. 清水武彦: 鶏白血病とマレック病の関係 (實用問答). 畜産の研究, 22, 1090, 1968
 16. 清水武彦, 石崎良太郎, 日原 宏, 水野喜夫, 佐沢弘士, 杉森 正: 鶏白血病ウィルス不在の実験鶏群の開発. 家畜試研究報告, 57, 9, 1968
 17. 清水武彦: 鶏のマレック病とはどんな病気か (實用記事). 畜産の研究, 22, 1441, 1968
 18. 横山利郎, 遠藤裕久: 鶏の伝染性 F 囊炎 (ガンボロ病) の特徴. 畜産の研究, 22, 1480, 1968
 19. 久保田健御, 青木守郎, 池田 智, 芹沢 弘, 三沢伴一, 宮崎幸吉: カナリヤボッケン予防接種の成績. 畜産の研究, 22, 1605, 1968
 20. 友 安夫, 吉村昌吾: 鶏コクシジウムに対するピキノレートの効果. 畜産の研究, 22, 1355, 1968
 21. 片江宏己, 清水当尚, 角田 清: 雛の各種コクシジウムの実験的感染に対するアンプロロリウム製剤の効果. 日獣師誌, 21, 392, 1968
 22. 安田弘太郎, 磯貝誠吾, 鈴木 要, 本間 学: ビリメサミンの鶏に対する毒性に関する研究, 日獣師誌, 30, 241, 1968
 23. 米村寿男: 鶏の衛生 (技術講座). 日獣師誌, 21, 449: 494, 1968
 24. 千葉胤考: 鶏の正常孵化と奇形の発生, 過去3年の成績の総括. 獣畜新報, 480, 5, 1968
 25. 田中克英: 鶏の下垂体前葉黄体形成ホルモン力価の産卵周期中における変動. 日畜, 39, 377, 1968
 26. MORII, T. & KITAKA, S: Relationship between the Course of Gametocyte Appearance of Akiba caulleryi in the Chicken and Sporozoite Production in Culicoides arakawae. NIAH. Quart., 8, 204, 1968
 27. MORII, T. & KITAKA, S: Influence of Temperature on the Sporogony of Akiba caulleryi, in Three Culicoides Species. NIAH. Quart., 8, 210, 1968

追加: 県機関の研究報告に発表されたもの

- 集録誌名 山口県種鶏場試験研究報告 No. 8, 9.
青森県 // 1963, 1964, 1966
神奈川県畜産試験場試験調査報告 No. 27
1. 山野洋一, 清田利夫, 内富秀夫, 石橋 豊, 山本滋, 岡崎義三: 鶏の呼吸器性マイコプラズマ病 (CRD) に関する研究, A. 鶏の呼吸器性マイコプラズマ病に対する数種抗生物質による野外治療試験 (第2報), 山口種鶏場, 8, 1, 1967; B. 鶏の呼吸器性マイコプラズマ病と鶏痘ワクチン接種との関係について (第2報), 同, 8, 9, 1967
 2. 山野洋一, 清田利夫, 内富秀夫, 石橋 豊, 山本滋, 上田武利: クロールテトラサイクリン (各種オーレオマイシン製剤) 投与による種鶏の呼吸器性マイコプラズマ病浄化試験 (第1報). 山口種鶏場, 8, 15, 1967
 3. 山野洋一, 清田利夫, 内富秀夫, 石橋 豊, 山本滋: クロールテトラサイクリン (オーロファック 10) 投与による種鶏の呼吸器性マイコプラズマ病浄化試験 (第2報). 山口種鶏場, 8, 23, 1967
 4. 山野洋一, 清田利夫, 内富秀夫, 石橋 豊: 種鶏の呼吸器性マイコプラズマ病浄化に関する試験 (第3報). 山口種鶏場, 9, 13, 1968
 5. 石橋 豊, 清田利夫, 内富秀夫, 山野洋一: ニューカッスル病不活化ワクチン接種により免疫された母鶏からの雛への移行抗体の消長. 山口種鶏場, 9, 11, 1968
 6. 稗田敏治, 米持勝利, 齋藤六郎, 林 功, 諸星智夫, 甲斐省三, 山口甚三郎: ニューカッスル病不活化ワクチン接種による抗体調査について, 神奈川県畜試, No. 27, 21, 1968
 7. 島川英一郎, 吉岡重治郎, 齋藤 克, 和田清治: ロイコチトゾン病の予防に関する試験, ビリメタミンの投与が受精率, ふ化率に及ぼす影響について, 青森種鶏場., 55 頁, 1963
 8. 島川英一郎, 和田清治, 関根光昭: ロイコチトゾン病の予防に関する試験, ビリメタミンおよびサルファジメトキシンの投与が受精率およびふ化率におよぼす影響について. 青森種鶏場., 67 頁, 1964
 9. 谷内光雄, 和田清治, 島川英一郎, 吉岡重治郎:

鶏の脚弱症の抵抗性の遺伝性に関する研究. 青森種鶏場., 1 頁, 1966

10. 中島信納, 小山国明, 稗田敏治, 林 功: エトキシ「三共化成」の飼料添加が鶏ひなにおよぼす

影響. 神奈川畜試., No. 27, 32, 1968

11. 内富秀夫, 石橋 豊, 清田利夫: カンニバリズム発症防止に関する試験, 山口種鶏場., 9, 53, 1968

◇専門委員会記録◇

昭和 44 年 1 月 18 日酪農会館会議室において第 3 回専門委員会が開催されたが、その経過は次の通りである

1. 出席者 (専門委員 21 名中 3 名欠席)
 委員長 堀内
 委員 宮本, 西村, 吉村, 伊藤, 千葉, 小野, 百瀬, 秋葉, 佐藤静, 関, 大川, 大久保, 伊東, 田中, 菊野, 佐藤多, 高沢 (順不同).
 理事 高松, 椿原, 信藤, 渡辺, 高村 (順不同).

2. 議題

- 1) 1B 生ウイルスワクチンの野外応用に伴う問題について
 2) ND 生ウイルスワクチン・スプレー法について
 3) 鶏病ワクチン接種プログラムについて
 4) その他

3. 議事

- 1) 堀内委員長議長となり 13.30 分開会
 各担当理事から議題説明 (要旨別紙の通り) の後、まず議題①「鶏病ワクチン接種プログラムについて」の取扱いについて討議した。

その結果各委員から種々意見が述べられたが、その意見は次の 3 つに集約された。

- ① 総合プログラムについて検討を加え、研究会としての統一見解を示すことは不可能である。従って種々の代表的プログラムを研究会として蒐集し、会員相互の利用に資するにとどめるべきである
 ② 単に種々の代表的プログラムを蒐集するだけでは意味がない。

現在第一線の技術者及至養鶏家は種々異ったプログラムが夫々普及され、あるいは指導されていることで迷っている。

研究会はこの悩みにできるだけ応えるための検討を加え、可能な限り統一したプログラムを作製して示すべきである。

- ③ ①の意見には満足できないが②について最初から自信はない。そこで各種代表的プログラムを集めて

みて、できるだけ整理をし、必要があれば検討することである。

例えば類型的整理でもよいし、プログラムにバックデータがあれば、それを吟味してみることもよい。また個性のあるワクチンの特質を明かにすることもよい。

議事としては以上の 3 つの代表的意見のいずれをとるかは決定しないまま、いずれにしても委員会としてできるだけ早急に代表的プログラムを各方面から求めることとし、事務局において関係方面に夫々手持のプログラム送付を依頼することに決定した。

- 2) 次に、"ND 生ウイルスワクチン・スプレー法について"を議題とし、先ず宮本委員から岡山, 福岡, 埼玉, 神奈川の各県下で行われた本法による接種成績について、各県から入手した資料に基いて紹介があり、つづいて高松副理事長から兵庫県下での成績が追加され、更に全般的な動向についての説明が行われた。

また大川委員から指導経験の紹介があり、錦織氏の資料も配布された。

委員会はこれらの説明に基き若干の討議を行ったが、委員全員に討議の資料を配布するに至っていないので、細部は資料の整理を行った上、小委員会に佐藤 (静) 委員を追加し、先般作製した ND ワクチンプログラムにスプレー法を折り込むことを目途として、この議題を付記した。

なお、この委員会の席上で説明討議された範囲では、概ねスプレー法には次の傾向があることが認められた。

- ① スプレー法による HI 抗体の上昇は他法に比し、急上昇の傾向があるが、下降もまた急のようである。しかし上昇時の全群のばらつき下降後の抗体レベル等